地の神様（地神）について

山に山の神、田に田の神の存在を考えたように、屋敷には屋敷神がいて私たちを守って下さる。
先人はそう考えて、その祭りをしてまいりました。
祭るにはその祠（ほこら）を屋敷の西北隅に置いているが、その多くは長い間竹の柱に藁屋根をつけた小屋状のもので、毎年十二月十五日の祭日に新しく替えてきたのです。

地の神様は先祖を祭り大地の安全を守るもの。

家代々の死者が五十年もしくは三十三年を経れば地の神様になると伝えられ、屋敷神として祭るようになりました。
特に最近のように地震も心配される今日、大地の安泰を願うと共に心の安らぎを得るのです。

神棚の里　有限会社静岡木工

地の神様の位置

宅地の北西（西北）の角に南向き、または東向き、あるいは屋敷の中心を向けて祠（ほこら）を設置します。

地の神様（のお供え

十二月十五日の例祭には、きれいな器に赤飯を盛り、海山の物をお供えし、腰をかがめて参拝します。

お参りの作法は神社に参拝するときと同じ、二拝二拍手一拝です。

一年の御礼と、来年も無事住まわせていただくことをお祈りし、神様にお供えした物を皆でいただきます。

※地域によっては、夕刻に新藁で作ったツト・新竹で作った箸、新米で作った赤飯をお供えし、祠（ほこら）も新しく替えます。石で作られた祠（ほこら）も多く見受けられますが、木で作られたものの方が好ましいでしょう。

毎年　十二月十五日
（十四日夕刻、他の月日の地域もある）

毎月　一日・十五日
（米・酒・塩・水等をお供えする）

正月　（しめ縄飾りをして鏡餅をお供えする）

神棚の里　有限会社静岡木工